

街区の再生課題 説明文

19T5024K 清水蓮

今回の街区の再生課題では、事前に授業内で須坂市の見学を行い、その後も何度か足を運び、須坂市の魅力を肌で感じました。その中で発見した地域住民の生活様式をもとに、須坂の観光資源、そして地域の特産品をいかに町の発展に結び付けていくかを念頭に置き、街区の再生課題に取り組みました。

“関わり、逢う”という題名は人と人との関わり合いの中から街が発展していき、新たな出会いが生まれるという設計趣旨に即します。

問題点として、須坂市の近年の人口推移は少子高齢化の傾向にあり、一方で近隣住民同士の間に関わり合いというものが年々薄くなっているように感じられます。このような現状に対して、街区内に散らばる隙間空間を利用して引いた 3 本の新しい道を、関わり合いの対象ごと、そこで行なわれる営みによって独自に進化させる形で、より住みやすい街区を作っていくという解決方法を提案します。

私は街づくりにおいて、地域住民の積極的な参加は必要不可欠で、今後数十年にわたって住民に親しまれるような街区をつくるためには、住む人たちが街の中で支えあっていくことが大切だと考えています。